

**TruPhase の導入(11)**  
**—アナログプレイヤーの交換(2)—**

1. はじめに

前報(10)に引き続き、TruPhase のアナログ再生においてアナログプレイヤーの交換を実施してみます。

2. TruPhase のアナログ再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、これまでの LINN LP-12 に替えて Garrad 401 から Stage 1030 経由で Marantz 7 Type キットのフォノステージに入力し、アナログアキュライザー AACU-1000 経由の RCA 入力を TruPhase の RCA2 端子に入力し、出力は RCA 出力を Langevin 6V6pp に入力することで再生を行いました。即ち、アナログプレイヤーの交換とフォノステージの交換と AACU-1000 を TruPhase の出力側から入力側に変更しています。

音源は、すでに前報(2)でも使用し、P&G のフェーダーで評価の固まっている次の音源を使用し、ZANDEN Model 120 の条件設定も既知の条件にしています。

**Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929**

**J.S.Bach Sonatas & Partitas**

**Nathan Milstein**

**ドイツグラモフォン MG2367 (日本ポリドール)**

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調

ウイヘルム・ケンプ

**キングレコード SKA-104**

愛と自然の歌

倍賞千恵子

**LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)**

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

**harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H**

ミトマニア ベーレン・ゲスリン

3. TruPhase のアナログ再生における動作確認の結果

上記のように、ZYX R100-EX 装着した Garrad401 から Stage 1030 経由で Marantz 7 Type キットのフォノステージに入力しているわけですが、これまでの Brooklyn

DAC+のライン入力とは違って、ストレートに音が出てくる印象です。なお、イコライザーカーブはすべて RIAA で位相は正相のままです。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas では、ミルシュテインの丁寧なボウイングの様は表現できていますが、艶のある豊かな音色が空間に広がる様は ZANDEN Model 120 に及ばないところがあります。

ドイツグラモフォン MG2367 のベートーベンのピアノソナタ第 31 番・第 32 番では、かなりの程度ケンプの鋭角的な打鍵の響きを表現していますが、ZANDEN Model 120 に及ばないところがあり、位相の調整ができないことから定位も曖昧なところが残ります。

倍賞千恵子では、前報(10)の ZANDEN Model 120 と同様、ボーカルもバックも伸び伸びとした再生ぶりを示します。

LONDON KLJC-9180/9184 のワグナーのワルキューレでは、かなりの程度スケール感の表現はありますが、細部の緻密な表現と歌手陣のやりとりの位置関係などステージ感、位相の調整ができないことから ZANDEN Model 120 に一步譲ります。

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H のミトマニアでは、前報(10)の ZANDEN Model 120 と同様、ボーカルは伸び伸びと歌っていますが、中世の古楽器である、撥弦楽器、擦弦楽器、管楽器、打楽器などの細かい質感表現のリアルさは ZANDEN Model 120 には及ばないようです。

#### 4. まとめ

TruPhase は、Garrad401 のシステムで Marantz 7 Type キットのフォノイコライザーを経由しても、これまでに聴いてきた馴染みの盤が、新しい魅力を発揮してくれることが分りました。なお、フォノイコとしてのニュアンスの表現は ZANDEN Model 120 に及ばないところがあり、位相の調整ができないもどかしさも残ります。

以上